

新潟県

教育月報 12月号

第860号
令和3年12月1日発行
編集人、発行人
新潟県教育委員会

<今月号の記事>

記事番号	記事内容	ページ	対象校種
1	教育ニュースライン	P 1	全種
2	令和4年度高等学校等募集学級計画について	P 2～5	高校
3	「確かな学力の向上」を図るために	P 6～8	小中
4	「拓け未来の新潟 第15回教育フォーラム」の開催について	P 9～10	全種
5	インフォメーション	P 11	全種

教育ニュースライン

県教育に関する最新ニュースをお知らせします。

教育広報紙「かけはし」51号(冬号)を発行しました

教育広報紙「かけはし」51号(冬号)の表紙には、「いじめ見逃しゼロ県民運動」に関する情報が掲載されています。また、「いじめ見逃しゼロ県民の集い」の開催情報や、「県民サポーター」募集の案内も掲載されています。

毎年2回、夏と冬に発行している保護者向け教育広報紙「かけはし」の51号(冬号)を12月1日(水)に発行しました。

本号には、いじめ見逃し県民運動、部活動の地域移行、全国学力・学習状況調査から見える本県小・中学生の状況、県少年自然の家での冬の行事、佐渡金銀山の出前授業、成人年齢の引き下げ、県立施設によるイベントの案内等、教育に関する情報を掲載しています。保護者の皆様だけでなく、教職員の皆様も是非御覧ください。

令和3年度新潟県優秀教職員表彰を実施しました

県教育委員会は、新潟県の教職員の意欲及び資質能力の向上を図り、学校の活性化に資するため、新潟県教育委員会表彰規則に基づき、学校教育における教育実践等に顕著な成果をあげた教職員を表彰することとしました。

教職員からは37名、教職員組織からは3組織が被表彰者として選出されました。

URL : <https://www.pref.niigata.lg.jp/site/kyoiku/kyousyokuinhyousyousyou.html>

「かけはし」掲載URL : <https://www.pref.niigata.lg.jp/site/kyoiku/1191169877149.html>

※Webのみ



令和4年度高等学校等募集学級計画について

高等学校教育課

令和4年度の募集学級について

1 令和4年度県立高等学校等募集学級計画策定の考え方

令和4年度県立高等学校等募集学級計画は、本年6月に策定した「令和4年度～令和6年度県立高校等再編整備計画」を基に、中学校卒業生数の変動や令和3年度の志願状況、入学状況、新潟県の課題などを精査し、策定しました。

また、計画策定にあたっての基本的な考え方は以下のとおりです。

「県立高校の将来構想」に基づき、魅力と活力ある学校づくりを推進する

- (1) 「県立高校の将来構想」の「3つの基本方針」を踏まえた魅力ある学校づくりを目指し、本県独自の新たな「5つのタイプの高校」を順次設置し、地域と連携した特色ある教育を実践する高校づくりを推進する。
- (2) 県内を6つのエリアに分け、そのエリアごとの中学校卒業生数及び他エリアとの生徒の流出入状況等を勘案しながら、募集学級数を検討する。
- (3) それぞれのエリアの状況を斟酌しながら、全県的視野に立って、学校規模の適正化を図る。

[県立高校の将来構想の3つの基本方針]

- ◇ 様々な分野で活躍できるグローバル人材を育成する教育の推進
- ◇ 県外の生徒も学びたくなる魅力的な学校づくりの推進
- ◇ 地域との連携を深化させた人づくりの推進

[高校の5つのタイプ]

- ◇ 専門分野を探究する高校

- ◇ 学科総合型の産業高校
- ◇ 大学進学を重視した学究型の高校
- ◇ 総合選択制の高校
- ◇ 柔軟な学びを可能とする高校

2 令和4年度募集学級計画の概要

令和4年度に募集学級を変更する県立高等学校等は、表1のとおりです。

表1 令和4年度募集学級を変更する県立高等学校等

全日制課程		
エリア	学校名	計画内容
①新発田・村上	阿賀野高等学校	普通 -1
②新潟	三条東高等学校	普通 +1
③長岡・柏崎	長岡大手高等学校	普通 +1
	長岡向陵高等学校	普通 +1
	長岡農業高等学校	農業 +1
	柏崎常盤高等学校	普通 +1
④魚沼	十日町高等学校	普通 +1
⑤上越	高田高校安塚分校	募集停止
	高田商業高等学校	商業 +1
	新井高等学校	総合 +1
⑥佐渡	佐渡高等学校	普通 +1

※定時制課程の学級増減はありません。

※中等教育学校の学級増減はありません。

県立高等学校、県立中等教育学校の募集学級と募集定員の一覧表は、5ページに掲載しました。

また、再編整備の具体的な内容は、次のとおりです。

〈阿賀黎明高等学校〉

「地域探究コース」を設置します。

阿賀黎明高校の地域探究コースでは、総合的な探究の時間における「阿賀学」や、学校設定教科「地域学」をとおして、地域の歴史、文化の理解や、地域の課題発見と課題解決、さらに地域の魅力発信に取り組む予定です。特に、学校設定科目「地域学」では、「まちづくり」や「福祉」、「土木林業」、「観光」



など、地域が直面しているテーマについて、地元自治体等と連携しながら学習し、現地調査等の実践的な探究活動を進めていく予定です。

募集学級等の推移

1 中学校卒業生数と高等学校等進学率の推移

(1) 中学校卒業生数の推移

平成元年3月に中学校を卒業した生徒の数は39,129人でしたが、現在は半数以下にまで減少しております。今後、令和4年春では一旦増加しますが、その後は再び減少傾向となり、現在の小学校1年生が高校に進学する令和12年3月には、今春の中学校卒業生数に比べ1,954人少ない16,392人となる見込みです。この減少数は、1学級あたりの募集定員の40人で計算すると49学級分に相当することになります。

なお、令和4年3月の中学校卒業生数は、今春より516人増加の18,862人と推計しています。(表2)

表2 各年春の中学校卒業生数

卒業年	卒業生数	増減(R3を基準)
平成元年3月	39,129	20,783
令和3年3月(今春)	18,346	±0
令和4年3月(来春)	18,862	516
令和5年3月	18,436	90
令和6年3月	18,348	2
令和12年3月	16,392	▲ 1,954

※令和4年以降は推計値

※中等教育学校前期課程の修了者を含む

(2) 高等学校等進学率の推移

高等学校等進学率の全県の推移(表3)を見ると、平成29年度以降、5年連続で99.6%となっています。このように、本県の高等学校等進学率は全国に比べ高い状況が維持されており、中学校を卒業した生徒のほとん

どが高等学校に入学していることとなります。

このことは、募集学級計画が本県生徒の進路希望やそれぞれのエリアの状況を踏まえて適切に行われていることが一つの要因であると考えています。

表3 エリア別高等学校等進学率(%)

年度 エリア	H29	H30	R元 (H31)	R2	R3
①新発田・村上	99.7	99.5	99.8	99.7	99.7
②新 潟	99.6	99.6	99.7	99.6	99.6
③長岡・柏崎	99.7	99.6	99.6	99.7	99.7
④魚 沼	99.8	99.2	99.6	99.4	99.5
⑤上 越	99.6	99.8	99.6	99.5	99.6
⑥佐 渡	99.4	99.5	98.5	98.7	98.3
全 県	99.6	99.6	99.6	99.6	99.6
全 国	98.8	98.8	98.8	98.8	未定※
全国順位	1	1	1	1	

※中等教育学校後期課程への進級を含む

※令和3年度の全国平均及び新潟県の全国順位は、12月下旬に判明する予定です。

2 普通科、専門学科等の募集定員比率

県立高等学校の普通科、その他の専門学科(理数、国際文化、情報科学、国際教養、音楽等)、総合学科、専門学科(農業、工業、商業、水産、家庭)の募集定員比率は、表4のとおりです。

表4 県立全日制普通科・専門学科等の募集定員比率(%)

年度 学科	H元	H10	H20	H30	R元 (H31)	R2	R3	R4
普通科	63.5	62.4	64.5	60.0	60.9	59.9	59.8	59.7
その他の 専門学科	-	3.0	4.3	4.1	3.8	4.0	4.2	4.1
総合学科	-	3.7	10.1	11.6	11.1	11.3	11.5	11.6
専門学科	36.5	30.9	21.1	24.3	24.2	24.9	24.5	24.6

※その他の専門学科…理数、国際文化、情報科学、国際教養、音楽等

※専門学科…農業、工業、商業、水産、家庭

令和4年度高等学校募集学級計画では、9学級増、募集停止を含む2学級減の合計7学級増とし、募集定員は280人増となります。

前年度と比較して普通科、その他専門学科の定員比率がそれぞれ0.1ポイント下がり、総合学科、専門学科の比率がそれぞれ0.1ポイント上がりました。

3 全日制学科別入学者数と充足率の推移

公立全日制高等学校等における学科別入学者数と充足率は、表5のとおりです。

表5 公立全日制学科別入学者数及び充足率の推移

年度	入学者数 合計	普通科系 入学者数	専門学科 入学者数	総合学科 入学者数
H28	15,493 (96.9)	10,342 (96.1)	3,537 (98.5)	1,614 (98.4)
H29	15,245 (95.8)	10,135 (94.9)	3,498 (97.4)	1,612 (98.3)
H30	13,999 (95.4)	9,152 (94.2)	3,290 (98.2)	1,557 (97.3)
R元 (H31)	13,770 (94.6)	9,059 (93.2)	3,255 (98.3)	1,456 (95.8)
R2	13,286 (94.7)	8,696 (93.7)	3,161 (96.7)	1,429 (96.6)
R3	12,654 (94.5)	8,297 (93.4)	2,980 (97.1)	1,377 (95.6)

※中等教育学校後期課程を含む

※()内は充足率

※普通科系:普通科、その他の専門学科

※専門学科:農業、工業、商業、水産、家庭

充足率とは、定員に対する入学者数の比率のことで、例えば、定員100人に対し95人入学すれば充足率は95.0%となります。令和3年度入学者数合計での充足率は94.5%であり、前年度と比べ0.2ポイント減となりました。

4 公立と私立の募集定員比率の推移

平成23年度～令和3年度までの公立高校と私立高校の募集定員比率は、表6のとおりです。この10年間で中学校卒業者数が4,000人余り減少する中、学級減については、主に県立高校で行ってきました。全日制課程の定員のうち、公立高校の占める割合は、平成23

年度の79.6%から、令和3年度では75.1%に低下しています。

今後は、県立高校と市立・私立高校における募集学級数のあり方なども課題と考えています。

表6 公立と私立の募集定員比率の推移

年春		H23	H24	H25	H26
中学校卒業者数		22,464	22,862	22,347	22,252
募集定員 比率(%)	公立	79.6	80.0	79.5	78.9
	私立	20.4	20.0	20.5	21.1

年春		H27	H28	H29	H30
中学校卒業者数		21,693	21,230	21,119	19,807
募集定員 比率(%)	公立	78.7	78.3	78.2	76.7
	私立	21.3	21.7	21.8	23.3

年春		H31	R2	R3	R3-H23
中学校卒業者数		19,716	19,148	18,346	▲4,118
募集定員 比率(%)	公立	76.6	76.0	75.1	
	私立	23.4	24.0	24.9	

おわりに

新しい高等学校学習指導要領では、複雑で予測困難な時代の中でも、生徒一人一人が社会の変化に主体的に向き合って関わり合い、多様な他者と協働しながら問題を発見し、解決していくために必要な力を育てていくことを重視しており、そのための教育環境を整えることがより一層重要となっています。

県立高校等の再編整備にあたっては「県立高校の将来構想」に基づき、教育に対する社会のニーズや県の課題にも留意しながら、魅力と活力ある学校づくりを進めてまいります。

毎年6月に公表している「県立高校等再編整備計画」は、中学1年生が高校入学時の学校・学科のおおよその姿が分かるように、向こう3か年分について示したものでありますので、将来の進路選択を見据えた学校選びの資料として活用していただきたいと思います。

県立高校等の再編整備計画や募集学級計画の策定に関して、本県の教育の現状や教育課題を御理解いただき、今後も御協力をお願いいたします。



令和4年度公立高等学校、公立中等教育学校の募集学級及び募集定員

■ 全日制課程

学校	学科	募集学級	募集定員
村上	普通	4	160
村上桜ヶ丘	総合	4	160
中条	普通	2	80
新発田	普通	6	240
	理数	1	40
新発田南	普通	4	160
	工業	4	160
新発田農業	農業	4	160
新発田商業	商業	3	120
	情報処理	1	40
阿賀野	普通	2	80
豊栄	普通	2	80
新潟	普通	7	280
	理数	2	80
新潟中央	普通	5	200
	普通(学究コース)	2	80
	食物	1	40
	音楽	1	40
新潟南	普通	8	320
	普通(理数コース)	1	40
新潟江南	普通	7	280
新潟西	普通	7	280
新潟東	普通	7	280
新潟北	普通	5	200
新潟工業	機械	2	80
	電気	2	80
	建築(建築コース)	1	40
	建築(建築設備コース)	1	40
	土木	1	40
	工業化学	1	40
新潟商業	総合ビジネス	4	160
	情報処理	2	80
	国際教養	2	80
新潟向陽	普通	5	200
巻	普通	7	280
巻総合	総合	5	200
新津	普通	6	240
新津工業	工業マイスター	1	40
	生産工学	1	40
	ロボット工学	1	40
	日本建築	1	30
新津南	普通	4	160
白根	普通	2	80
五泉	総合	5	200
村松	普通	2	80
阿賀黎明	普通	1	40
三条	普通	6	240
三条東	普通	6	240
新潟県立工業	工業	4	160
三条商業	総合ビジネス	4	160
吉田	普通	2	80

■ 定時制課程

学校	学科	募集学級	募集定員
荒川	普通	午前部1	35
西新発田	普通	午前部2	70
新潟翠江	普通	午前部1	35
長岡明德	普通	午前部3	105
		夜間部1	35
出雲崎	普通	午前部1	35
堀之内	普通	午前部2	70
十日町	普通	1	40
高田南城	普通	午前部2	70
佐渡	普通	午前部1	35
(相川)			
県立計		15	530

■ 通信制課程

学校	学科	募集定員
新潟翠江	普通	若干人
高田南城	普通	若干人

■ 中等教育学校

学校	募集定員
村上中等(前期課程)	2
燕中等(前期課程)	2
柏崎翔洋中等(前期課程)	2
津南中等(前期課程)	2
直江津中等(前期課程)	2
佐渡中等(前期課程)	1
県立計	11

注：学校欄の()は分校を示す

学校	学科	募集学級	募集定員
分水	普通	2	80
加茂	普通	4	160
加茂農林	農業	4	160
長岡	普通	6	240
	理数	2	80
長岡大手	普通	6	240
	家政	1	40
長岡向陵	普通	6	240
長岡農業	農業	4	160
長岡工業	工業	5	200
長岡商業	総合ビジネス	4	160
正徳館	普通	1	40
栃尾	総合	2	80
見附	普通	3	120
柏崎	普通	5	200
柏崎常盤	普通	3	120
柏崎総合	総合	3	120
柏崎工業	工業	3	120
小千谷	普通	5	200
小千谷西	総合	4	160
小出	普通	4	160
国際情報	国際文化	2	80
	情報科学	2	80
六日町	普通	5	200
八海	普通	2	80
塩沢商工	地域創造工学	2	80
	商業	1	40
十日町	普通	6	240
(松之山)	普通	1	40
十日町総合	総合	4	160
松代	普通	1	40
高田	普通	5	200
	理数	1	40
(安塚)	普通	募集停止	0
高田北城	普通	5	200
	生活文化	1	40
高田農業	農業	4	160
上越総合技術	工業	5	200
高田商業	総合ビジネス	4	160
久比岐	普通	1	40
有恒	普通	1	40
新井	総合	4	160
糸魚川	普通	3	120
糸魚川白嶺	総合	3	120
海洋	水産	2	80
佐渡	普通	5	200
羽茂	普通	1	40
佐渡総合	総合	3	120
県立計		320	12,790

「確かな学力の向上」を図るために

義務教育課

はじめに

今年5月に令和3年度全国学力・学習状況調査が全国の小・中学校で実施されました。本調査は、小・中学生の学力や学習状況、課題等を把握し、それらを踏まえて児童生徒への学習指導の改善・充実等に役立てる目的で行われています。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施が見送られ、2年ぶりの実施となりました。

本号では、全国学力・学習状況調査の結果に基づいた、「本県児童生徒の学力の現状と課題」、運用12年目の「Web配信集計システムの活用」についてお伝えします。

本県児童生徒の学力の現状と課題

1 学力調査から見てくる現状と課題

表1 公立小・中学校の平均正答率(%)

	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
新潟県	64	69	65	56
全国	65	70	65	57
差	-1	-1	0	-1

※小学6年生と中学3年生を対象にした全数調査
小学校は、国語・算数とも全国平均をやや下回りました。中学校の国語は全国平均と同程度でしたが、数学は全国平均をやや下回りました(表1)。昨年度、休校の影響による授業時数確保のため、Web配信集計システムをはじめとする学力向上の取組を中止したことが、全国平均を下回った要因の一つと捉えています。

また、学力調査の教科別正答数分布グラフから、全国平均を下回る教科では、全問正解および1問間違いの児童生徒の割合が全国より低いことがわかります。全体の底上げを図り、上位層の割合を増やしていくことが課題です(図1~4)。今後、さらに分析を進めてまいります。

図1 小学校国語 正答数分布グラフ(%) 全14問

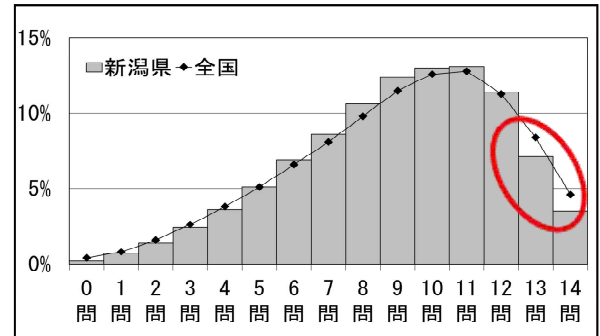


図2 小学校算数 正答数分布グラフ(%) 全16問

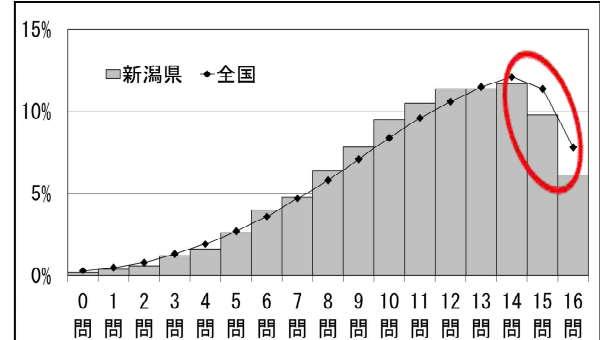


図3 中学校国語 正答数分布グラフ(%) 全14問

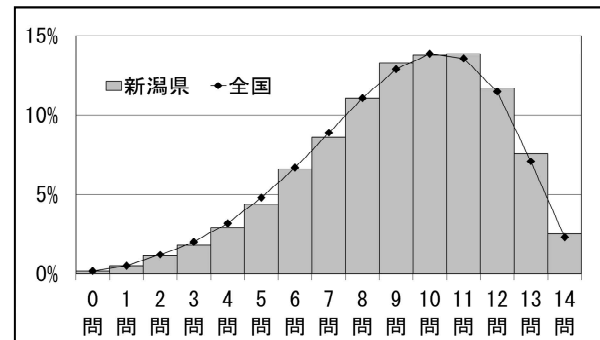
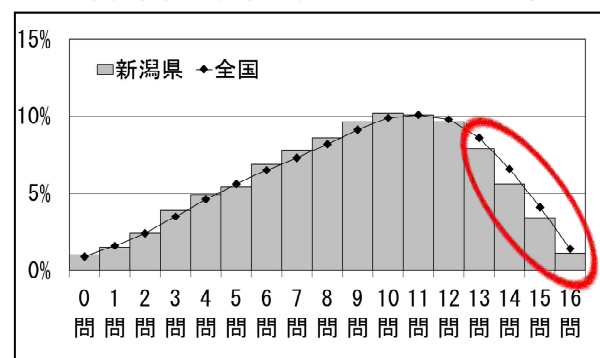


図4 中学校数学 正答数分布グラフ(%) 全16問



2 質問紙調査から見てくる現状と課題

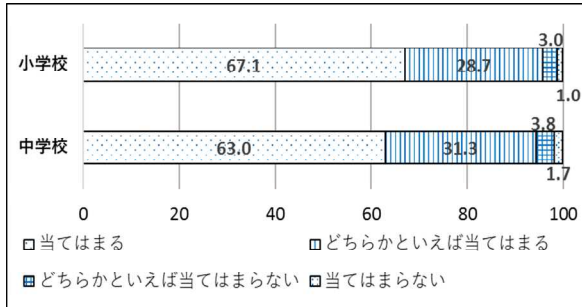
(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりについて

表2 「教科の勉強が好き」と回答した割合(%)

	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
R3	63.4	67.0	62.3	59.6
R1	69.4	67.4	63.7	59.2

「教科の勉強が好き」と回答した児童生徒の割合は、3教科で前回調査を下回りました(表2)。主体的な学びの実現には、「教科の勉強が好き」と思えることが欠かせません。各学校では、新型コロナウイルス感染症による休校等の影響により、学びの保障を最優先に取り組んできたと思いますが、制約のある現在においても「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」が実感できる授業づくりを意識し、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善に取り組んでいきましょう。

図5 「学習でICT機器を使うことは勉強の役に立つと思うか」の割合(%)



また、今年度は一人一人に、学習者用端末が整備されました。「学習でICT機器を使うことは勉強の役に立つと思うか」で、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と回答した割合は、小・中学校とも90%を超えています(図5)。ICT機器を有効に活用することで、児童生徒の学習意欲を高めたり、他者の考えを瞬時に共有し新しい気付きを得たりすることができます。また、個別最適な学びの充実にも活用できるなど、新たな学びのツールとして、大いに期待できます。

県教育委員会では、ICT活用が円滑に進むよう、教育支援システムに指導案等の実践事例のほか、授業ですぐに使えるデジタル教

材の充実を図っています。また、9月にシステムをリニューアルしました。以前に比べ、欲しい情報に素早くアクセスできるようになっています。システムを大いに活用し、ICTを用いた授業づくりをお願いします。

(2) 家庭学習時間について

図6 「平日1時間以上家庭学習をする割合」(小学校)(%)

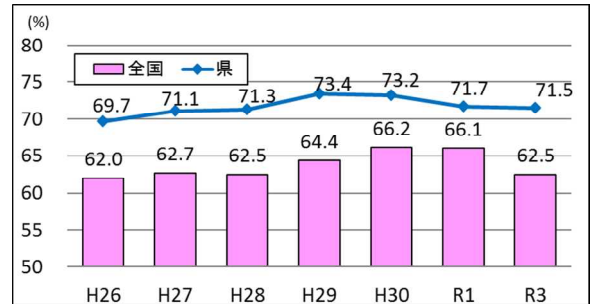
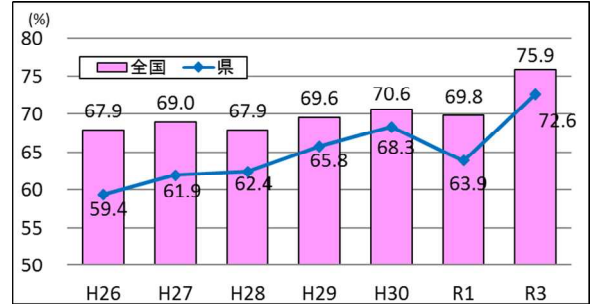


図7 「平日1時間以上家庭学習をする割合」(中学校)(%)



「平日1時間以上家庭学習をする割合」は、小学校で継続して全国平均を大きく上回っており(図6)、中学校は全国平均を下回っているものの、前回調査から8.7ポイント上昇し改善が見られます(図7)。

図8 「平日2時間以上家庭学習をする割合」(小学校)(%)

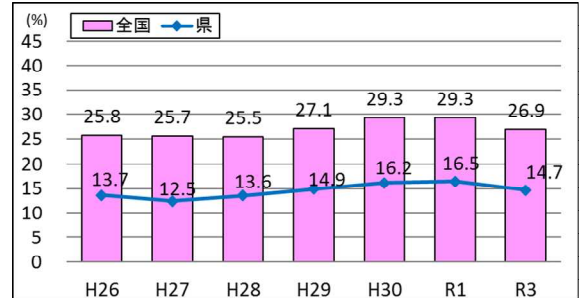
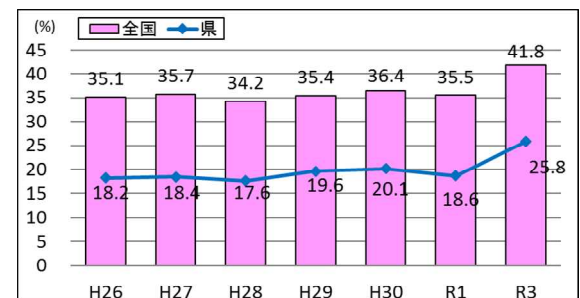


図9 「平日2時間以上家庭学習をする割合」(中学校)(%)



一方、「平日2時間以上家庭学習をする割合」は、小・中学校とも全国を下回っています(図8、9)。

宿題等の与えられた学習にとどまらず、主体的な学びが喚起されるよう、授業と家庭学習をつなぐ働きかけの工夫が必要です。例えば、課題提示を工夫し、次時の授業で調べてきたことを発表する場を設定することで、児童生徒が「授業の振り返りで生じた疑問点を、家庭で調べてみたい」「授業で学習した内容の発展的課題に、家庭で挑戦したい」と思えるようにするなどです。また、児童生徒が意欲的に取り組めるICTを活用した課題を課すことも可能です。児童生徒が、意欲をもって家庭学習に取り組めるよう、各学校で工夫をお願いします。

Web配信集計システムの活用

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、「どのように授業改善したらよいか分からない」「授業改善を進めているが、児童生徒に資質・能力が身に付いているのか判断することが難しい」との声を耳にします。

そこで、今年度のWeb配信集計システムは、「授業改善サポート」による授業改善と、その後に配信する「診断問題」による評価を一つのユニットとして配信しています。

これまでの「授業改善サポート」は、「診断問題」を生かして授業を改善していくアイデア例として、診断問題実施後に配信してきました。今年度は、先生方からよく聞く悩みを出発点に、つきたい力を身に付けるための授業改善の具体策を示した5分程度の動画としました。この動画で自主研修し、次の授業から取り組むことを具体的に決めて授業実践を重ね、その後に配信される「診断問題」で、つきたい力がどの程度身に付いたかを測ります。その設問には★をつけてありますので、正答率や回答の状況から評価し、授業改善を更に進めていけるようにしています。

各学校で、この評価のサイクルに繰り返し取り組み、授業改善を進めていきましょう。

「つきたい力」を伸ばすためのサイクル

「授業改善サポート」を受けた授業改善

動画で研修

資質能力を育成する場面例を提案

学年や教科部で話し合うと、効果的

改善サポートを受けて授業を改善

「診断問題」で結果を評価・分析

2021 新潟県 第2回算数診断問題 45分 6年 組氏名 << 解答 >> 番号

今回の問題は、「どうしてそう考えたか」を大切にしています。理由を明らかにして、説明を書きましょう。
★「見直しをもち、筋道を立てて考察する力(第1回授業改善サポート)」に対応した問題の解答欄に★マークがついています。

1 たろうさんは、いろいろな図形の「辺の長さ」と「まわりの長さ」の関係について調べています。次の問いに答えましょう。

(1) たろうさんは、正三角形の1辺の長さ□cmとまわりの長さ○cmを表にしたところ、「○が□に比例すること」に気づきました。

1辺の長さ□ (cm)	1	2	3	4	...
まわりの長さ○ (cm)	3	6	9	12	...

「○が□に比例する」といえる理由を、上の表をもとに説明しましょう。

【理由】 (正答例)
□が2倍、3倍、...になると、
○も2倍、3倍、...になるから。 ※理由で数字は正答とする。

【授業改善サポートと診断問題のサイクルイメージ】

https://docs.google.com/spreadsheets/d/1w5vP01M1pZ_dgBiERnt1_FntC1CLUZTSzr1_Pf_8eK4w/edit?usp=sharing



授業改善サポート

研修ポータル

数学

英語

どのようして考えたか理由を明らかにして、説明する力

まとものある英文を書く力

画面はここをクリック!

動画はここをクリック!

ワークシートはここから

【授業改善サポートの研修ポータル画面】

おわりに

新潟県教育委員会では、これからも学力向上に取り組む教員、学校、市町村教育委員会を支援していきます。



「拓け未来の新潟 第15回教育フォーラム」 の開催について

県立教育センター

はじめに

「拓け未来の新潟 第15回教育フォーラム」を令和4年1月28日(金)に開催します。

当日は、昨年同様、ビデオ会議アプリ「Zoom」や動画共有サービス「YouTube」を用いて、参加者が勤務校から参加する形態で行います。

学習指導要領の趣旨の実現を図る学習評価をテーマとした講演会と、本県の教育の喫緊の課題について扱う6つの分科会を実施します。

教育フォーラムの開催について

1 概要

(1) 参加対象者

幼・小・中・高・中等教育学校・義務教育学校・特別支援学校の教職員及び教育委員会関係者

(2) 実施方法

Zoom等によるオンライン開催

(3) 期日 令和4年1月28日(金)

(4) 日程 13:00～13:20 開会挨拶
13:30～15:00 講演
15:10～16:40 分科会

(5) 申込み方法

各学校・園や教育委員会に11月中旬に送付する開催案内を御覧ください。

2 講演会

京都大学の石井英真准教授をお招きし、「学習指導要領の趣旨を実現するための学校評価について」と題して、講演をいただきます。

指導と評価の一体化、高等学校での観点別評価の導入など、ますます学習評価

の在り方が重要になってきています。多くの皆様の聴講をお待ちしています。

—講師紹介—

京都大学大学院准教授

いしい てるまさ
石井 英真 様



教育学博士。専門は教育方法学。

学校で育成すべき資質・能力をモデル化し、それらを実現するカリキュラム、授業、評価、教師教育について研究を進めている。

文部科学省「中央教育審議会教育課程部会」「児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ」委員などを務める。

主な著書に『今求められる学力と学びとは』日本標準、『授業づくりの深め方:「よい授業」をデザインするための5つのつぼ』ミネルヴァ書房、『ヤマ場をおさえる学習評価 深い学びを促す指導と評価の一体化入門』図書文化、ほか多数。

3 分科会

本県の教育課題に取り組む6つのチームによる分科会です。概要を紹介します。

【A 教育相談】

子どもの出すサインをいかに見取るか。見逃されやすい子どものサインを7つの観点・30項目に分類した「子どもの変化に気付くチェックリスト」の活用を

提案します。教師が、児童生徒を観察する視点や捉え方を増やし、援助が必要な児童生徒に気付くこと、児童生徒理解の深化を図ることが目的です。

協力校において実際にチェックリストを使っていただいた結果から、教師の視点の変化について検証し、発表します。

【B 学級経営】

「子どもの笑顔あふれる学級づくり」のためには、日々の取組（朝の会、帰りの会や給食、清掃指導など）に加えて、学級活動・ホームルームの時間の指導・支援が重要です。

今年度実施した学級経営に関するアンケートから話し合い活動の課題を明らかにし、協力校での学級活動（話し合い活動）の実践をもとに指導のポイントを探ります。また、小学校・中学校・高校の発達段階に応じた支援のあり方について、ビデオ会議アプリ「Zoom」で意見交換します。

【C 特別支援教育】

昨年度から「高等学校の通級指導における自立活動の充実」をテーマに研究を行っています。

今年度は、通級による指導の「職員連携を図る情報共有システム」や「作業的活動を取り入れた自立活動の授業開発」について、協力校での実践を基に紹介します。

卒業後の進路を見据えたキャリア教育という視点から、就労に繋がる自己理解を促し、「働く力」を高めるための指導について提案します。

【D 主体的・対話的で深い学び】

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、各学校において様々な実践に取り組まれていることと思います。また、ICT機器の活用も重要な視点です。

そこで、実践協力校とともに単元デザ

インシートとICT機器を活用した授業づくりに取り組んでいます。

本分科会においては、YouTube（録画）で授業実践を紹介しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について発表します。

【E 学習評価】

学習評価については、学習指導要領において三つの柱で再整理された資質・能力が児童生徒に確実に育成されているかを的確にとらえ、教師の授業改善や児童生徒の学習改善につながるものにしていく必要があります。

本分科会では、「評価の考え方」と「評価の事例」に分けてYouTube（録画）で配信します。小中学校はもちろん、来年度から新学習指導要領が年次進行で実施される高等学校にとっても学習評価の充実に資する内容を紹介します。

【F 学力向上】

今年度のWeb配信集計システムでは、教師の授業力向上及び児童生徒の学力向上を目指し、新しい方策をとっています。それは、「授業改善サポート」に基づいた授業改善と、「診断問題」による評価のサイクルを繰り返すことです。

この取組に関する検証協力校の実践例の紹介や各学校の授業づくりについて提案し、ビデオ会議アプリ「Zoom」での意見交流をとおして考えます。

おわりに

多くの皆様の御参加を心からお待ちしています。

<問い合わせ先>

県立教育センター 教育研究班

住所 新潟市西区曾和100番地1

TEL 025-263-9028

URL <https://www.nipec.nein.ed.jp/>



インフォメーション

●県立近代美術館（長岡市）

コレクション展第4期

[展示室1] 近代美術館の名品

小特集：生誕130年羽下修三

当館の所蔵品から選りすぐりの名品を展示します。併せて、現在の五泉市（旧中蒲原郡川内村）出身で、本年度生誕130年を迎える彫刻家・羽下修三（はがしゅうぞう）の作品を展示します。

[展示室2・3] 1920年代の美術

所蔵品から1920年代の日本とドイツの作品を中心に展示し、当時の社会的背景や文化的様相を踏まえて、作品の意味するものを検証します。



深澤素一《新東京百景 築地》1929年

（展示室2・3「1920年代の美術」より） [前期展示]

- 会 期 12月21日(火)～3月21日(月・祝)
[前期：～2月6日(日)、後期：2月8日(火)～]
- 会 場 コレクション展示室
- 休 館 日 毎週月曜日、12月29日(水)～1月3日(月)、1月11日(火)
※1月10日(月)、3月21日(月)は開館
- 開館時間 午前9時～午後5時
(観覧券の販売は午後4時30分まで)
- 観 覧 料 一般430円 (340円)
高校・大学生200円 (160円)
中学生以下無料

●県立万代島美術館（新潟市）

企画展「サンリオ展

～ ニッポンのカワイイ文化60年史 ～



©2021 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO. SP620156

2020年に創業60年を迎えたサンリオの歴史は、世界からも注目されている「カワイイ」文化の歴史そのものといっても過言ではありません。本展はグッズや出版物、貴重な資料によって創業からの歩みをたどるとともに、時代を超えて愛され続ける数々のキャラクターにこめられた「サンリオの想い」をお届けする展覧会です。

- 会 期 1月20日(木)～4月10日(日)※予定
- 休 館 日 1月24日(月)、1月31日(月)、2月7日(月)、2月14日(月)、2月28日(月)、3月7日(月)、3月14日(月)
- 開館時間 午前10時～午後6時
(観覧券の販売は午後5時30分まで)
- 観 覧 料 一般1,600円 (1,400円)
高校・大学生1,300円 (1,100円)
中学生以下無料
- ※前売券(一般のみ)1,400円を12月3日(金)～1月19日(水)まで販売します。
- ※1月19日(水)まで、展示替えのため休館します。

※()内は有料20名以上の団体料金です。

※障害者手帳をお持ちの方は観覧料が免除になります。受付で御提示ください。

【お知らせ】

- ・マスクの着用にご協力をお願いします。
- ・新型コロナウイルス感染症の状況により、開催内容に変更が生じる場合もございます。最新の情報は美術館ウェブサイト等で御確認ください。

県立近代美術館
住所 長岡市千秋3丁目278-14
TEL 0258-28-4111
URL <https://kinbi.pref.niigata.lg.jp/>

県立万代島美術館
住所 新潟市中央区万代島5-1 朱鷺メッセ内
万代島ビル5階
TEL 025-290-6655
URL <https://banbi.pref.niigata.lg.jp/>

※PDFファイルで御覧の方は、下線部(Webページアドレス)をクリックすると、直接該当Webページにジャンプしますので御活用ください。
※県ホームページからバックナンバーも御覧いただけます。
「新潟県 教育月報」で検索してください。

教育月報 

発行所 新潟県教育庁総務課
所在地 〒950-8570
新潟市中央区新光町4番地1
TEL 025-280-5587
FAX 025-285-3766
E-mail ngt500010@pref.niigata.lg.jp
URL

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/kyoiku/>
本紙に関する御意見がありましたら、お寄せください
<無断転載を禁ず>